

平成24年5月27日

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門・“はじめの一步”部門」  
**まちづくり活動提案書**

## 1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	ジネンカフェ		
団体名	特定非営利活動法人まちの縁側育くみ隊		
提案の活動を行う地域	名古屋市昭和区		
提案の内容	<p>ジネンカフェの〈ジネン〉を漢字で表すと〈自然〉つまり〈あるがまま〉ということ。障がい者が自分らしく生きられる社会理念のことをノーマライゼーションと呼びますが、現代においては様々な要因から自分らしく生きられなくなっているのは障がい者のみならず、健常者も同じではないでしょうか？ ありのままの自分を受け入れ、自分らしく生きている障がいのある人、あるいはその支援者の方を毎月お招きして、開放的でありながらも親密なまちの縁側空間（くれよんBOX）において、お茶を飲みながら自由にお話をしていただくことにより、障がいのある人となない人が理解しあい、協力しあって地域の中で共に生きる真のノーマライゼーション社会を育む一助にしたい。また、時には楽しい交流の機会や、地域にある短大、名古屋柳城短期大学の体育館を会場に借り、シンポジウム+ワールドカフェを開催してゆく。それと共にこのプロジェクトの活動理念を広めてゆくために、リーフレットを作成してゆく。</p> <p>① 10月を除いた、毎月一度のジネンカフェの開催</p> <p>② 11月に予定している拡大版の開催</p> <p>③ 広報のためのリーフレット作成</p>		
活動期間	平成24年4月～平成25年3月	助成金交付申請額	30万円

## 2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根ざしたまちづくり活動内容か</li> <li>・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か</li> <li>・地域との連携や協力が得られる活動か</li> <li>・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か</li> </ul>
<p><b>(提案活動の必要性について上記観点から分かり易くご記入下さい。)</b>                  ※過去の助成を受けた団体は、その活動助成の成果も踏まえて記入下さい。                  ソーシャル・インクルージョンが提唱されて久しく、交通バリアフリー新法や、人にやさしいまちづくり条例などによりハード面のバリアは整備されつつあり、まちの中で障がいのある方をみかけることもあたりまえになってきました。しかし、一方では地域の中で障がいのある人となない人が同じ空間、同じ体験や感動を共有し、交流する機会はそれほど多くありません。私たちはまちの縁側MOMOで培った経験から、障がいの有無に関わりなくやわらかに集い、語りあうことにより互いに共感し、理解し、認めあう開かれた関係性が地域の人たちの中に生まれ、広がってゆくことこそが、ソーシャル・インクルージョン実現に向けて必要なことではないかと信じております。</p>	
審査基準② 独創性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創意工夫にあふれた活動か</li> <li>・地域性を活かした個性豊かな活動か</li> <li>・新しい視点やアイデアがあるか</li> </ul>
<p><b>(提案活動の独創性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</b>                  ジネンカフェが目指すものは、単に障がいのない人に、ある人たちのことを理解してもらうことのみならず、相互に理解しあい、認めあう開かれた関係性です。現代は10人に1人は何らかの精神的トラブルを抱え、毎年3万人もの方々が自殺を遂げています。つまり現代社会は障がいのある人ばかりではなく、地域に住む誰もが生きづらさを感じているのではないかと。私たちはそのような観点に立ち、誰もが自分らしく生きるにはどうすればよいのかを、地域で自分らしく生きている障がいのある方たちや、その支援者から話題提供してもらい、意見交換を図ることにより、参加者と一緒に考え、そのひとりひとりが何らかの気づきが得られることを望んでいます。それには地域に開かれたやわらかいまちの縁側の空間は、必要不可欠です。</p>	
審査基準③ 実現性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案内容が具体的にになっているか</li> <li>・事業予算は妥当か</li> </ul>
時期	活動内容
平成24年4月	ジネンカフェ VOL.060 ゲスト：大久保康雄（当法人理事）
5月	ジネンカフェ VOL.061：磯部奈美、寺見麻里（音楽サークル ドラむす）
6月	ジネンカフェ VOL.062：石黒好美（草の根ささえあいプロジェクト事務局）
7月	ジネンカフェ VOL.063：山口未樹（NPO法人ポパイ理事長）リーフレット作成
8月	ジネンカフェ VOL.064 あいち淑徳大学ボラサークル（未定）
9月	ジネンカフェ VOL.065 お楽しみ交流会
10月	
11月	ジネンカフェ VOL.066 拡大版：ゲスト3名予定
12月	ジネンカフェ VOL.067 神森珠美（ヨガインストラクター）予定
平成25年1月	ジネンカフェ VOL.068 中村慎一郎（中村接骨院院長）予定
2月	ジネンカフェ VOL.069 有山美波（くれよんBOX職員）
3月	ジネンカフェ VOL.070 中村くに子（くまのて代表）予定

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書(ページが不足する場合は別紙にご記入下さい。)

活動項目	内訳		金額(円)
通常版ジネンカフェ	諸謝金	講師謝金 10,000円×8名	80,000
	旅費交通費	スタッフ交通費	20,000
	保険料	スタッフ保険料	2,100
	消耗品費	コピー用紙 390円(500枚)×10	3,900
拡大版ジネンカフェ	諸謝金	10,000円×5名	50,000
	使用料賃貸料	会場使用料、音楽アンプ等リース料	60,000
	旅費交通費	スタッフ交通費	40,000
	通信運搬費	郵送代	5,000
	印刷製本費	インク代	10,000
	業務委託費	チラシ デザイン料	10,000
	消耗品費	模造紙、簡易ボールペン、コピー用紙	5,000
リーフレット制作	保険料	スタッフ保険料	10,000
	印刷製本費	デザイン料+用紙代	40,000
報告書作成	印刷製本費	デザイン料+用紙代	40,000
計	都市センター助成金 300,000円 自己資金 76,000円(事業費等を充当)		376,000

審査基準④ 発展性  
 ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか  
 ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか

(提案活動の発展性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)

ジネンカフェはいわば漢方薬のようなものです。地域の社会環境を劇的な変化をさせることは難しいでしょう。しかしながら、ひとりひとりの住民の意識を変化させることによって、その地域全体の社会環境をじわりじわりと変革できるものと信じています。それには様々な団体や教育機関や行政との協働も必要です。幸い一昨年から名古屋柳城短期大学や、あいち淑徳大学CCの協力により学生さんを巻き込みながらの展開もしてきています。また、名古屋市社会福祉協議会さんや昭和区社協さん、あるいは様々な福祉・医療系支援団体さんとの協働も視野に入れていきます。広報もWEBでの情報発信はもちろん、ジネンカフェ単体でのリーフレット作成も考えています。

審査基準⑤ 活動実績と主体性  
 ・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか  
 (団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。)  
 ・具体的にどんな熱意を注いでいるか

※「はじめの一步部門」は審査の対象とはしません。

※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。この場合、公正を期するため、A4判3枚(両面)までを限度とさせていただきます。

**団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。**

当団体は、あらゆる属性や立場を越えた開かれた関係性がまちの中に広がることを願いつつ、NPO法人くれよんBOX、任意団体かたひらかたろうと共に、2007年1月から6年間、2012年5月現在で61回ジネンカフェを開催してきました。参加人数はその回によってまちまちですが、一年に一度大きな会場を借りて行う拡大バージョンでは毎年80名近い参加者が来られ、事後アンケートにも多くの人々が期待を寄せて下さっていることが記されています。ジネンカフェの開催回数を示す数字は三桁台になっていますが、これは少なくとも100回は続けたいという意欲の表れなのです。

※第2号様式は、3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格A4とします。